

国土緑化推進機構助成シンポジウム



ルネサンスへの道

一若者を山村、林業へ

昨年、「WOOD JOB!」という映画が公開されました。山村にひょんなことから移住し、林業に就業して奮闘する都会育ちの若者の物語です。森林・林業関係者だけではなく、広く社会で話題となり、今年の森林・林業白書でも取り上げられることとなりました。

現在、田園回帰、地方移住などのスローガンのもと、農山村への移住を進める機運が高まり、政府主導で地域おこし協力隊など、若者を農山村へ送り込む様々なプロジェクトも始まっています。林業関係では、映画「WOOD JOB!」のモデルともなった「緑の雇用」事業が2003年から開始され、既に着実な成果を上げているところですが、林業の仕事Wood Jobに従事し、あるいは様々な地域おこしの試みのお手伝いを通じて山村を元気にする若者を増やすことは、国土保全・水源涵養など多様な働きにより、暮らしや地域を支える森林を守り育てる上で大きな課題となっています。

しかし、一方で、山村での生活や風習に慣れない、例えば1ターンの人々の移住は、移住する側にも受け入れる地域の側にも、大きな負担を強いている一面があり、特に最近数年のブーム化によって、これまでとは質の異なる問題が生じている可能性があります。

もう一度原点に立ち返って、一連の過程を検証し、その成果と課題・問題点を確認すると共に、若者が定住して地域の担い手になる道筋を明らかにすることが大切です。

このシンポジウムは、若者の森づくり・地域づくりへの参画にとりくむ、企業・行政・NPO・大学の方々と、手がかりをつかもうとする若者自身の参画を得て、この課題を真正面から取り上げます。

日時

平成27年 10月3日(土)

午後1時～6時 ※懇親会あり

場所

東京大学農学部
1号館2階8番教室

東京都文京区弥生1-1-1

東京メトロ南北線「東大前駅」徒歩1分

※懇親会会場は、弥生講堂アネックス、セイホクギャラリーです。

参加費

無料 ※懇親会は参加費をいただきます

主催

「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会

運営協力

一般財団法人林業経済研究所

後援

林野庁、国立研究開発法人森林総合研究所、NPO法人自然環境復元協会、全国国有林造林生産業連絡協議会、全国山村振興連盟、全国森林組合連合会、(一社)全国木材組合連合会、(一社)全国林業改良普及協会、(公社)大日本山林会、(一財)地球・人間環境フォーラム、(一社)日本森林技術協会、(一財)日本森林林業振興会、日本製紙連合会、(一財)日本木材総合情報センター、(一財)日本緑化センター、(一財)日本林業経営者協会、(株)日本林業調査会、(一社)日本林業土木連合協会、(株)農林漁業成長産業化支援機構、(一社)林業機械化協会、林業経済学会



Programme



第1報告 牧大介氏(岡山県西栗倉村 西栗倉・森の学校代表)

西栗倉村百年の森構想と起業家的人材の発掘・育成



第2報告 奥山洋一郎氏(鹿児島大学助教)

『緑の雇用』と山村・林業に向かう若者たち



第3報告 金井久美子氏(「緑のふるさと協力隊」チーフコーディネーター)

『緑のふるさと協力隊』活動の実態と課題



第4報告 齋藤朱里氏(大田原市森林組合)

Wood Job 3年目の現場経験から



座長: 興梠克久氏(筑波大学大学院准教授)

パネルディスカッション

報告者・座長 紹介



牧 大介 (まき だいすけ)

1974年、京都府生まれ。京都大学大学院農学研究科(森林生態学)修士課程修了。コンサルタントとして、新規事業の企画・プロデュースを多数手掛ける。2009年10月、株式会社西栗倉・森の学校を設立し、代表取締役を務める。森の学校では、木材加工・流通事業、移住・起業支援事業を手掛けている。



奥山 洋一郎 (おくやま よういちろう)

1974年、北海道生まれ。鹿児島大学農学部森林政策学研究室・助教。筑波大学第二学群農林学類卒業後、東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程単位取得退学。大学では社会人対象の技術者養成に関わる仕事に従事。現場で働く人々の向学心にはいつも刺激を受けている。林業の仕事が長続きされる方は知識の吸収に貪欲。その期待に大学がどう応えられるのか、ということを考える日々。



金井 久美子 (かない くみこ)

1948年、岩手県生まれ。幼い頃は里山を遊び場として過ごす。1993年に地球緑化センターの設立に参画。国内外をフィールドに、全国を対象に緑のボランティアの育成を進める。特に若者の一年間農山村貢献活動「緑のふるさと協力隊」は22年間で105市町村に718名の若者を派遣。若者と地域をつなぐコーディネーターとして調整やサポートを担当。一年を通し農山村を飛び回る日々。山仕事に憧れる若者たちに多く出会ってきた経験から、彼らが何を求め、もがいているのかを伝える。



齋藤 朱里 (さいとう あかり)

1989年、栃木県黒羽町(現大田原市)生まれ。東京農業大学短期大学部を卒業後、宇都宮大学森林科学科に3年次編入。大学卒業後、現在の職場に就職。事業課の職員として、森林の保育関係全般の仕事に携わる。組合員に施業の説明や、技能員の仕事の段取りなどを行っているが、まだ勉強中の身である。先輩や組合員、技能員に教えていただきながら日々の業務を行っている。周りの皆さんに支えられながら、仕事や森林と向き合っている。



興梠 克久 (こうろき かつひさ)

1968年、宮崎県生まれ。1997年九州大学大学院農学研究科修了後、財団法人林政総合調査研究所研究員、九州大学大学院農学研究科助教を経て、2010年より現職。林家経営論が専門、産地形成、林業事業体・林業労働問題、森林機能評価、森林保険等についても研究。近著：興梠編著『「緑の雇用」のすべて』(日本林業調査会、2015年刊)。

当シンポジウムは、公益財団法人国土緑化推進機構(緑と水の森林基金)の助成を得て、「広葉樹ルネサンスで、むら・まちを活かす」(2011年)、「〈里エネ〉ルネサンス! 活かそう地域のエネルギー」(12年)、「国産材ルネサンス」(13年)、「森林と食のルネサンスー創る・活かす新たな山の業」(14年)と過去を未来につなぐルネサンスをテーマとした情報発信をしてきました。今年はその第五弾として、人を主人公として、標記テーマで開催するものです。

事務局・お問い合わせ：一般財団法人 林業経済研究所

〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6 高関ビル3A

Tel : 03-6379-5015 / mail : office@foeri.org / HP : <http://www.foeri.org/>

森林・林業・山村問題を考えるシンポジウム実行委員会：

土屋 俊幸 / 飯沼 佐代子 / 大塚 生美 / 永田 信 / 平野 悠一郎 / 安村 直樹 / 山本 美穂